



令和4年3月1日現在	
世帯数	: 835世帯
人口	: 1514人
男	: 727人
女	: 787人

まん延防止等 重点措置下で



医療のひっ迫と社会機能の停滞を防ぐため、令和4年1月27日から2月20日までの期限内で発出された「まん延防止等重点措置」が、3月6日まで2週間延長されました。

まん延防止等重点措置の主な内容は、施設の使用制限、イベント等の開催制限のほか、外出・移動についてや職場への出勤等についてなど様々な制限がありますが、注目度が高いのは飲食店等に対する制限ではないでしょうか。

○宅配・テイクアウト、認証店を除く飲食店には営業時間短縮（午後8時まで）と酒類の提供をしないことを要請。また、同一グループ同一テ



「まん延防止等重点措置が延長になった2/21の夜」

ブルでの飲食は4人まで。

○認証店については、営業時間短縮（午後9時まで）を要請。同一グループ同一テ

ブルでの飲食は4人まで。

○認証店については、営業時間短縮（午後9時まで）を要請。同一グループ同一テ

プ同一グループは原則4人だが、対象者全員の検査など条件を満たすと5人以上の会食もできる。

というものです。

2020年の1月15日に日本ですべての感染者が確認されたから、もう2年が経ちました。その間、全ての人が様々な影響を受け、大変な思いをしていることは想像に難くありませんが、なかでも飲食店

「コロナが発生してからは、変な言い方だが、ずっと安定した赤字。大家さんのご厚意で段階的に家賃を下げていた

だき、何とか持ちこたえていたが、固定費を支払うだけでも大変。従業員の生活も守らなければいけない。

飲食業界では人材の確保が難しく、今いるメンバーを大切にしなければはと思っ

期間延長の初日となる2月21日月曜日午後7時30分ころの駅前には、人通りも少なく開いている飲食店も疎らで、さみしい限り。感染が一時的に落ち着いていた年末の人数が嘘のように静まり返っていました。

行政からの度重なる営業制限の要請に、翻弄されるかたちの飲食店業者はどう感じているのでしょうか。

県の認証を取り、午後9時までの短営業で酒類の営業を続ける飲食店の店主に話を聞きました。

「県の見えない不安がいつも付きまわっているが、立場上弱音は吐けない。自身のモチベーションを保つのに苦労しているが、こんなときだからこそ、なんとか店を開き続けなければという気持ちでやっている。」

一方、県の認証を取らず、酒類の提供ができないため、店を休んでいる家族経営の居酒屋の店主は「県の認証は手続きも面倒な上、うちのよう

で、少ないながらも想像していたよりは売り上げがあるのがせめてもの救い。町の人口は少なく、来店客の7割は県外からの客。

先の見えない不安がいつも付きまわっているが、立場上弱音は吐けない。自身のモチベーションを保つのに苦労しているが、こんなときだからこそ、なんとか店を開き続けなければという気持ちでやっている。」

一方、県の認証を取らず、酒類の提供ができないため、店を休んでいる家族経営の居酒屋の店主は「県の認証は手続きも面倒な上、うちのよう

まちかどフォト

Presented by 視聴覚委員会

令和4年のあめ市
まん延防止等重点措置により、規模を縮小して行われました。

な狭い店舗では県の指針通りにしたら、客は2〜3人しか入れない。これでは商売にならないし、なじみの客の多くは年齢層も高く、外出を自粛している人が多い。無理に営業して、仕込んだ食べ物を捨てることになるくらいなら、休んだ方がいい。自分も年寄りなので、まん延防止等重点措置が明けた後、店の仕事を今まで通りやっていく気力を保てるか心配。またいつ休めと言われるか。早く特效薬がでないかなあ。」などと話していました。

第一地区に活気が戻るのはいつになるのでしょうか。

町内 公民館



伊勢町3丁目
新そば体験(11/7)



本町5丁目
マレットゴルフ(11/7)



新伊勢町
花壇の花植え(6/30)



博労町・中条中 合同
マレットゴルフ(11/14)

第一地区の公民館活動

〜コロナ禍でも、三密を避けながら活動しました〜



そば打ち体験(12/14)



デジカメ講座写真展
(1/8~30)



ご近所広場だよ! 全員集合
中町蔵シック館(11/10)

第一地区 公民館

電車通り

5歳の息子を育てる我が家。近頃、同世代の子育て家庭から「松本への移住」について相談を受ける機会が増えてきました。

大規模な災害や、数年に渡って続くコロナ禍を経験して、「大都会の利便性」より重視される価値観の変化が進んでいるのでしよう。「働き方」も多様化している事から、このタイミングで移住に踏み切るご家族が多数あるものと思われまます。

一方、松本の市内もそうした移住者を見込んだ準備が進みつつあります。

以前から問題視されていた市街地の空き家や空き店舗。数十年変わらずに荒れ果てた建物の多くが、このところ、解体され、手を加えられているのを見かけます。又、転入に関するオンライン相談窓口が市によって整えられました。移動を制限されたコロナ禍でも、空き家情報や近隣立地の詳しい話が聞ける仕組みです。こうした準備と共に、私個人としては、「松本で共に暮らす仲間」になるため、移住される方と土地の住民を繋いだり、クッションになったりできるよう、積極的に関わりを持ってたかなあ、と思うのです。